

第10分科会 キャリア教育

テーマ 「社会に開かれた教育課程の編成とキャリア教育」

提案2 「知的障がい特別支援学校における一貫した支援を行うための研究」

発表者	愛媛県立みなら特別支援学校	教 諭	田鍋 尚佳
司会者	愛媛県立新居浜特別支援学校	教 諭	山根 彩果
助言者	愛媛県教育委員会 特別支援教育課	指導主事	安部 良次

I 実践に当たって

平成29年4月特別支援学校学習指導要領の改訂が公示された。改訂の主要な点の中に「学びの連続性」と「カリキュラム・マネジメント」があり、学校教育の充実に加え学年・部間の縦の連携が求められている。しかし、愛媛県内の知的障がい特別支援学校では、年々児童生徒数が増加し連携が難しい状況にある。本校でも現在児童生徒数が増加傾向にあり、引継ぎがうまくされていないという教員や保護者の声を耳にすることが多い。実際に周囲の教員から、「前年度の担任にしかできない支援である」「進級すると、昨年度と同じ支援をしても同じ行動ができないことがある」という話を聞くことがある。また、私自身も支援の効果を引き継げないことで生徒が不安定になり、学校生活に不安を感じたり、自信をなくしたりする姿を見するという経験があった。そのため、学校生活において、担任や場所が変わっても、支援方法の正しい引継ぎや支援のツールが必要であると考えた。さらに、本校では、引継ぎの期間や時間も短いため、限られた時間の中で分かりやすく伝えていかなければならない。そこで、愛媛県内の知的障がい特別支援学校の教員と保護者に調査を行い、引継ぎの現状と課題を明らかにし、物的・人的環境が変化しても行える支援のツールを作成・活用し、効率的・効果的な支援の引継ぎ・連携を可能にしたいと考えた。

II 実践内容

1 引継ぎの実態調査

愛媛県内5校の特別支援学校を対象に、教員と保護者にアンケート調査を行った。望ましい行動、興味・関心、気になる行動、引継ぎの効果や課題について質問紙を作成した。担任回収率113名(回収率61.0%)、保護者597名(回収率49.9%)から回答を得た。

2 支援のツール

子供の気になる行動の原因から支援を考えていくための「なりたい私になれるシート」(図1)、子供の興味・関心をどのように生かしていくか考えるための「私の良い所を生かすシート」(図2)の2枚の積極的行動支援シートを作成した。A特別支援学校で研究説明を行った上で、研究への協力に同意した教員がシートを活用して支援を行った。教員の変化については、実践前後で支援に関する意識調査

を行った。積極的行動支援シートを活用した教員の数は、小学部2名、中学部5名、高等部5名、計12名であった。効果を感じた教員の数は、小学部1名、中学部5名、高等部2名、計8名であった。

なりたいたい私になれるシート (小学部 年組)

なぜ気がかりな行動をしななければならぬか ・嫌なことから逃げたい。 ・先生に聞わってほしい。	気がかりな行動 思い通りにならないことがあると移動中や教室から突然走りだす。	気がかりな行動はどのような意味があるか。 ・授業を受けなくてよい。 ・先生に聞わってもらえる。
どうすればなりたいたい私になれるか(誰がいつ何をやるのか具体的に) どうしたかったか先生に聞わってもらう。	なりたいたい自分 今の気持ちを伝えられるようになりたい。	次はこうなりたい いろいろな気持ちを自分から伝えられるようになりたい。

なぜ、できなかったか。

なりたいたい私になれるとき

私のよいところをいかすシート (小学部 年組)

興味・関心・強み ダンスが好き 掃除が好き	生かしたいこだわり ほうきで掃きすぎると止められなくなる。	
なりたいたい自分 いろいろな所を掃除したい。(ほうきで掃きたい)	どうしたらなりたいたい私になれるか 先生に学校の掃除を頼まれる。	次にどう生かしたいか。 自分から校内を掃除し、感謝されることで意欲や目的を持って役割に取り組む。

〈図1 なりたいたい私になれるシート〉

〈図2 私の良い所を生かすシート〉

III 成果と今後の課題

1 アンケートの結果と考察

教員、保護者共に興味・関心や強みについての引継ぎよりも、気になる行動や苦手なことの引継ぎを行ったという回答の割合が高かった。しかし、支援の効果については、気になる行動や苦手なことよりも、興味・関心や強みを生かした支援の引継ぎを行った方が、「支援に効果を感じた」と答えた人数の割合が高かった。本人の強みや好きなことを生かした支援内容については、タブレット端末の使用やダンス、絵を描くこと、写真や魚の本を見ることに分けられた。「子供が意欲的に行動するようになった」「自信をもつようになった」という回答結果から、子供の良い所を生かすための支援は、子供の主体的な学校生活につながっていると考える。引継ぎの方法で効果があったものとして、サポートブックや写真、映像を活用することが挙げられていることから、具体的で誰もが分かりやすい引継ぎは、児童生徒にとっても効果を感じやすいのではないかと考える。

2 シートを活用した支援と効果の例

(1) 「なりたいたい私になれるシート」(子供の気になる行動の原因から支援を考えるためのシート)の支援と効果

生徒の実態
・高等部3年生男子。小学校の頃から不適切な行動が多い。学校に行きたがらず登校しても教室に入らないことが多い。特定の授業を受けるのを嫌がり、教室で一人で過ごす。授業に出ても、教員に対して不適切な言動がある。
支援
・「こころく」という気持ちを表すiPadのアプリを使用し、その日の気持ちを毎日聞き、それを習慣化した。嫌な気持ちだけでなく、うれしい気持ちについても聞いた。 ・活動をやり遂げたときや担任がうれしい気持ちになったときも「こころく」で気持ちを表すようにした。

<ul style="list-style-type: none"> ・以前は、授業に参加しないときに、「高校生なんだから」「就職したときどうするの」と言って指導をしていたが、気持ちが切り替えられるような言葉掛けに変更した。
効果
<ul style="list-style-type: none"> ・本人が学校に行きたくないという理由で欠席した日数が月5日程度から月1回程度に減少した。参加が難しかった特定の授業にも毎回参加するようになり、担当の教員とも人間関係を築くことができた。 ・保護者からは、自分の子供に「こころく」が合っているので、積極的に使用してほしいとの申し出があった。 ・情緒が不安定なときには特定の教員の言葉掛けでしか動かなかったが、担任とのやり取りで活動するようになった。 ・学校が楽しいと言うようになり、様々な場面で主体的な行動が見られた。

(2)「私の良い所を生かすシート」(児童・生徒の興味・関心をどのように生かしていくか考えるためのシート)の支援と効果

生徒の実態
<ul style="list-style-type: none"> ・中学部1年男子。情緒が不安定なときや、自分に関心を向けたいとき、「ばか」「あほ」などの不適切な発言をする。自分の思いどおりにならないとき、友達をたたくことがある。学級で仲が良い友達がいるが、けんかすることやトラブルを起こすことが多い。ほうきを使っての掃除が好きで、掃除をし始めると自分が納得するまで止められない。
支援
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の玄関を終わりの会の前に友達とほうきで掃く役割を設定した。 ・役割を果たした後に他の学級の教員にも掃除の様子を伝えて称賛してもらうようにした。
効果
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、不適切な発言が減り、教員の手伝いをしたり、友達の手本になるよう行動をしたりして、称賛されることを期待した行動を取るようになった。 ・けんかが多かった友達と楽しそうに話したり遊んだりすることが増えた。自分から他の学級の教室の清掃をすることもあった。

3 教員の視点の変容(シートの活用とアンケート結果の関係)

「なりたい私になれるシート」を活用した教員については、1回目より2回目の方が、障がい特性から子供の行動の原因を考え、具体的な回答をしている教員が多かった。このことから、教員は、シートの活用によって適切な視点をもつことができるようになったと考える。「私の良い所を生かすシート」を活用したという教員は半数であった。実施できても短期間で終わっていた事例もあった。実施できなかった理由として、問題行動を減らすことに視点が置かれていたこと、教材準備や実際の活動の時間がなかったことが分かった。

4 2枚のシートを使用した結果と考察

教員が2枚の積極的行動支援シートを活用することで、子供の様子を見る視点に変容し適切な支援を行うようになり、子供の気になる行動が減るだけでなく、学校生活において意欲的になるなど内面的な変化にもつながった。このことから、2枚のシートを使用した実践にあるように適切な実態把握をしたり、子供の強みや好きなことを生かす視点に立った支援が必要であることが分かった。全ての学

年や学部で好きなことや強みを生かした視点に立った支援が実践されることで、12年間の学びの連続性が実現すると考える。

5 課題

シートを活用する上で二つの課題が見つかった。一つ目は、担当する教員が変わると支援が違ったという事例である。シートの効果が得られなかった原因として、シートの活用を学級だけで行っていたことに原因があると考えられる。一貫した支援を行うためには、学級担任が学年会や支援会議の場でシートに書かれた支援方法について共通理解を図り、複数の教員で支援の効果について検証していく必要がある。二つ目は、シートを活用した支援の効果が次年度に引き継がれているかどうか検証できていないことである。次年度、シートを活用した支援とその効果が継続しているかを調査する必要がある。このような取組により、シートは一貫した支援体制を作るためのツールとして、シート自体も更に客観的・効果的なものになっていくと考える。そして、誰もが使用できるツールとして学校全体の中で機能し、担任が変わっても支援が適切に引き継がれていくべきである。

〈指導・助言〉

本実践は、アンケート結果を基に、児童生徒の良さや得意な面を生かした支援ツールを工夫することにより、効果的な引継ぎに生かそうとする実践である。

支援のツールとして「なりたい私になれるシート」と「私の良い面を生かすシート」を作成し、実際にその効果を検証されている。シートの活用により、教師の視点の変容するなど、ポジティブな行動支援に向けた効果が見られている。調査件数が12事例ということで、今後、検査の実施事例を増やすなどして更に多角的な考察を加え、効果の検証をしていただきたい。

「なりたい自分」について考えることは、子供のキャリア発達を促すことにつながるものである。支援シートを作成する際に、記入内容や作成時期、作成回数等を工夫することで、支援の手掛かりを知るだけでなく、未来の自分を考える上で振り返ることができる「キャリア・パスポート」としての活用が可能であると考えられる。知的障がい特別支援学校において、児童生徒が、自ら振り返りながらこのシートを完成するには難しい面もあることから、教師間の連携や保護者の参画により「なりたい私」（目標）を地域や家庭と共有すること、そのために必要な資質・能力について考える際に「私の良いところを生かすシート」を活用すること、そして実際に連携した支援をコツコツ積み重ねることで、よりよい支援や有効な引継ぎに結び付くと思われる。

最後に、個別の教育支援計画や個別の指導計画の中にこれらのシートをどう位置付けていくかによって、カリキュラム・マネジメントを行う上での効果的なツールの一つになると考えられる。今後も、校内での支援体制の充実を図るとともに、保護者、地域、関係機関等との連携を深め、社会に開かれた教育課程の実現に努めていただきたい。